

事業名	高校と居場所づくり NPO の協働による地域づくり担い手発掘育成事業
申請団体	特定非営利活動法人まいペース
協働団体	荒井学園新川高等学校
申請区分	ワカモノ活動促進事業



【活動内容】

- ・ 当団体と新川高校が協働し、魚津市・黒部市・下新川郡広域で地域の担い手を発掘育成する地域づくり・地域ボランティア入門連続講座「まいペースアカデミー」を実施した
- ・ アドバイザーの尾野寛明氏を招聘し、社会人受講生7名、高校生受講生4名による「マイプラン」の作成、現地フィールドワーク、簡単な報告会を実施した
- ・ 協働先からの要望に応え、特別講義「関係人口って何？新川高校の関係人口戦略2025～2030」を実施、対話を通じて教育現場における関係人口の考え方を解説し、簡単なロードマップ作成を行った

【活動の成果や感想】

社会人と高校生が一緒の場で考えるという珍しい取り組みを約5ヶ月にわたり実施してきた。議論は噛み合うのかという心配もある中で試行錯誤の中で進めてきたが、約5ヶ月間の対話が継続されることで社会人と高校生が様々な場面で協働が行われ、地域課題の解決に向けた小さなプロジェクトが生まれてくるのが分かってきた。

社会人が高校生の前で話をしてみることで、普段思っている「いつかは何かを始めてみたい」という前向きな気持ちが生まれてくるとの意見があり、対話そのものにも効果があることが確認された。逆に高校生も社会人の前で自分の考えを話してみることで普段の環境ではなかなか話せないことを思い切り話すことができ、将来のキャリア形成に多少なりとも刺激を与えることができたと思う。

地域の高校の魅力化に向け、「地域でなにかしたい」と思った社会人や子育て世代・シニア層のために敢えて高校に集うことで対話を行うという、これからの時代に向けた新たな選択肢を提供することで、高校と地域の新たな関係性を構築していきたい。

事業名	～田舎で本気のおそびを見つけよう～本気のおそび LABO 「ASOVIVA」 「ASOVIVA」 ✖ 田舎女子ゼミ
申請団体	ASOVIVA
協働団体	田舎女子ゼミ
申請区分	広域交流事業



【活動内容】

本気のおそび LABO 「ASOVIVA」 ✖ 愛知の田舎女子ゼミで4回講座実施

9/9 1回目 興味のあることややってみたいことを掘り下げる

11/5 2回目 助けて欲しいこと手伝って欲しいことを伝えてみる

1/21 3回目 宮城県のかく大学と協働で発表会の練習

3/23 4回目 発表会

3/24 とやま女子会（田舎女子ゼミプチサミット）県内外から25人の参加者

【活動の成果や感想】

ASOVIVA 講座では毎回、愛知県の田舎女子ゼミメンバーと繋ぎ、交流しながらコメントを交わし、自分の頑張っていることや興味のあることを掘り下げ、言語化していった。自分の足元を見つめ直し、やってみたいことを明確にすることができた。そして言語化することで、受講生同士で協力できる仲間が発見できたり、実際にやってみたいことを実践するメンバーもいた。

最後の発表では、田舎女子ゼミメンバーが愛知や新潟から参加し、コメントをしながら交流を行い、懇親会を行った。とやま女子会では新潟からの参加者も増え、子供を含めて総勢40名ほどの参加となった。子育て世代の繋がりを作り出し、本気の趣味を実現できる橋渡しを行い、地域外からでも梅檀野地区に通って地域をフィールドに自分のやりたいことに挑戦できる・仲間と繋がれる環境を提供することができた。今後も県外の親子世代とつながり、親子が集いやすい環境を作っていくことで、県内外の関係人口作りにつなげていく。

事業名	がん患者と医学生等の相互対話および富山県の新しい医療の魅力訴求
申請団体	Medipathy
協働団体	キャンサーペアレンツ
申請区分	ワカモノ活動促進事業



第 2 回の様子

【活動内容】

第 1 回 2023 年 9 月 30 日

実施場所：富山市まちなか総合ケアセンター

お子さんのいるがん患者 2 名をお招きし、お話を伺いました。がんと告知された際のこと、お子さんがいる中でどのように生活をしているかなど様々なお話を伺うことができました。

第 2 回 2023 年 12 月 17 日

実施場所：Healthian-wood（立山町）

若くしてがんを患った患者さんをお招きし、お話を伺いました。若い頃のがんとわかり、治療したからこそのお話を伺うことができました。

【活動の成果や感想】

合計 3 名のがん患者さんをお招きし、医学生との対話の場を設けました。ただお話を伺うだけではなく、積極的に医学生も質問をし、対話を重ねることができました。大学の授業だけでは学ぶことのできない「病」について知ることができた良い機会を提供できたと考えています。今後は更に多くの学生に対してこのような場を提供していきたいと考えています。他にも全国規模の学会での登壇、全国紙への掲載など富山を超えて日本全国に本活動を報告することができました。

事業名	中部地区路面電車サミット 2023 高岡大会
申請団体	NPO 法人高岡ディスカバー協議会 (2023 年度、NPO 法人 RACDA 高岡) へ名称変更)
協働団体	NPO 法人ふくい路面電車とまちづくりの会
申請区分	広域交流事業



【活動内容】

2023 年 11 月 25 日 (土) 13 時 ~ 17 時 30 分、高岡商工会議所 2 階大ホールで開催

■中部地区路面電車サミット全体会議 豊橋市 (愛知県)、福井市 (福井県)、いなべ市 (三重県)、関市 (岐阜県)、金沢市 (石川県)、大阪市 (大阪府)、横浜市 (神奈川県) の各地の市民団体が壇上にて発表を行った。

■記念講演・「宇都宮ライトレールの取り組みについて」宇都宮ライトレール株式会社常務取締役中尾正俊氏に講演いただいた。参加人数：約 100 名

■パネルディスカッション「高岡の交通まちづくりの未来」コーディネータ：中川 大氏 (富山大学特別研究教授・富山県地域交通政策監)、パネリスト：中尾 正俊氏、菅野 克志氏 (高岡商工会議所副会頭)、升方 芳美氏 (タカポケ代表)

【活動の成果や感想】

今回のサミットは三重県いなべ市で開催されることが決まった。講演では、宇都宮ライトレールは想定以上に好調であり、さらに中心市街地側への延伸計画が実現される見込みである旨もご説明いただいた。パネルディスカッションでは、「もっと多くの市民が『自分事』として考えることが大切」。高岡市街地を魅力的に元気にするために、先進国で行われているように高岡駅前周辺の自動車乗り入れを規制してはどうかといった大胆な意見も出された。当会の今後の励みとともに、当地の交通まちづくりの弾みともなった。

事業名	若者発！保育を語り・保育を学び・保育の輪をつなげる事業
申請団体	特定非営利活動法人リボン from とやま
協働団体	富山短期大学子育て支援サークルすみりー
申請区分	ワカモノ活動促進事業

○保育士養成校学生・現役保育士・潜在保育士合同勉強会



○講師によるワークショップ(造形表現、特別支援、グラフィックレコーディング)



○保育施設バス見学ツアー(石川県内保育施設4カ所)



【活動内容】

富山県内の保育士養成校の学生と県内保育施設で働く1年目から5年目までの保育士、県内の潜在保育士による研究会・勉強会の開催。県内外の好事例の共有、保育施設の見学や講師によるワークショップや勉強会の開催を通じ保育の魅力ややりがいを共有する。

【活動の成果や感想】

毎月の勉強会には、毎回15名程度が参加し、学びを可視化することができた。9月の勉強会から学生や現職保育者、潜在保育士の興味・関心や保育業界の今日的課題を洗い出し外部講師を招聘し、10月11月1月2月の勉強会では、外部講師によるワークショップと事例検討会を行った。また、2月には石川県の先進的な保育施設に見学に行き、富山県との違いを学ぶ機会をもつことができた。

学生と現職保育者、潜在保育者が一堂に会して行う勉強会は県内でも先駆的な事例と言える。今後も引き続き勉強会を開催していき、研究発表などにつなげたい。

参加者からの声も踏まえて、保育の魅力ややりがいは、皆一様に感じているが、その成果と社会的評価、待遇がミスマッチしていると思われる。また潜在保育者への広報が困難であり、国が探し求めている潜在保育士の掘り起こしは改めて難しいことを実感した。

事業名	とやまの竹の祭典
申請団体	特定非営利活動法人 Bamboo saves the earth
協働団体	富山県呉羽青少年自然の家
申請区分	県民協働活躍事業(継続型)



【活動内容】

9月17日(日) 呉羽青少年自然の家 プレイベント

竹のスタードームテント 6張 九州から教授・棟梁(大学生)6名・富山県内の竹の関係者20名と体験学習を設営。

9月18日(月) 呉羽青少年自然の家 とやまの竹の祭典2023 in 呉羽

富山県・富山市・環境財団が協賛 竹林整備保全の啓蒙活動と持続可能な竹の有効利用の調査研究のパネル展示や体験ブース出展。

会場 スタードームテント6ブースで①竹を考える②竹でご飯③竹あかり点灯④竹細工⑤竹で遊ぼう⑥スタードームデモを展示。

ステージは、富山市の藤井市長の祝辞でスタート。

富山県森林研究所所長・バンブーセーブジヤース代表が竹談義・とやまの竹を考える「竹サミット」を開催。

午後はライブ音楽やダンスパフォーマンスステージ。

夜は、雨天のため 施設エントランス ナイトライブステージ(フォークグループ・ジャズシンガー・ピアノ演奏)で盛り上がりました。

【活動の成果や感想】

富山県・富山市・環境財団・県内の竹ネットワーク関係者が集い、これからの富山県の放置竹林問題・竹の有効利用について意見交換の場となった。

とやまの竹の祭典参加者

9月17日(日)：スタードームテント体験 指導者7名 受講者20名

9月18日(月)：参加スタッフ60名、展示・展示マルシェ20件、飲食ブース 10軒
音楽ライブパフォーマンス出演者6グループ、会場参加者 延べ500人(県内各地から)

これからも富山県内での放置竹林問題・竹の有効利用の調査研究を続け、9月18日「世界竹の日「とやまの竹を考える：とやまの竹の祭典」として、富山県内の竹林問題啓蒙のイベントとしたい。

事業名	第23回アミザーデサッカー大会
申請団体	アミザーデサッカー大会実行委員会
協働団体	有限会社サン・フット企画
申請区分	広域交流事業



元日本代表北澤選手との夢の競演



車いすの選手も立ち上がりシュート！

【活動内容】

猛暑の中、今年も2泊3日で五福公園陸上競技場にて「第23回アミザーデサッカー大会」が開催されました。1日目チーム対抗ゲームや体験会、2日目はJECAセミナーダイレクター藤原明夫氏に大変楽しいクリニックを、午後からは元日本代表の水沼貴史氏による、クリニック、3日目はフレンドリーマッチで参加者、ボランティア全ての人をシャッフルし新たなチームで、総当たりのゲームを行い、思う存分多くの仲間とサッカーを楽しみました。

途中、チアリーディングチームの日本一の演技で応援していただき、一緒にダンスも楽しみました。

夜には、久しぶりに懇親会を開催しました。県サッカー協会の根塚会長にも参加いただき、みんなで大いに語り合い親睦を深めました。

【活動の成果や感想】

本年は9都道府県からの参加で、3日間で参加者・ボランティアのべ350名という大所帯で、みんなでサッカーを楽しみました。また、千葉大会でも200人余りの参加者で、年々アミザーデサッカーの輪が広がり、誰でもがスポーツ（サッカー）を楽しむことができるステージが広がっていることを実感しています。その上、本年はJECAセミナーダイレクター藤原氏、元日本代表の水沼氏、日本障がい者サッカー連盟会長北澤氏の参加もあり、大きな応援をいただきました。また、初めて行政からの支援を頂き、財政的に大きな支援となりましたことと共に、社会的に認められ認知されたと思っております。これを機に今後も多くの方々と連携し、共に未来に向かって歩んでいきたいと思っております。